

バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル No.127

SABS Journal No. 127

発行日：2021年9月24日

URL：<http://sabsnpo.org>

当 SABS ジャーナルでは、故奥山典生東京都立大学名誉教授が 2015 年 6 月 13 日のご逝去直前まで毎回様々な分野にわたり溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後、奥山先生のご遺志を継いだ我々が当協会を続けさらに発展させて行くため、毎月の定例会を継続して来ました。定例会ではこれ迄通り専門家の方々に話題を提供して頂き、自由な討論を通じて勉強と親睦を深めて来ています。

前回のジャーナル(No.126)では 6 月 26 日の定例会を中止するというお知らせでした。

今回もまた 9 月 25 日予定の定例会を中止するお知らせとなってしまいました。

今考えると 6 月当時東京の感染者数は 1 日 500 人足らずで緊急事態宣言も出ていませんでした。それから例年通り 7 月と 8 月は定例会も夏休みに入りました。その直後 6 月末になって少しずつ感染者数が増え始め 7 月半ばには緊急事態宣言が出ました。そして Covid19 は我が国でもインドから発生した感染力が 1000 倍を超えるといわれる□株が従来型(武漢株など)をほぼ 100%駆逐して大変な勢いで感染を広げました。遂に 8 月半ばには遂に 6000 人近い感染者が出る始末となりました。それにも拘わらず昨年延期したオリンピックとパラリンピックは開催されました。その是非はともかく緊急事態宣言はその後何度も延長され現在は 9 月 30 日までとなっています。

幸いここ数週間、東京などでは一日の感染者数が急激に減りつつあります。9/20 には、約 300 人(検査数 8000 強)で陽性率は 4%となりました。実はこのジャーナルは 8 月半ばころから書き始めていたのですが、当時感染者数は 5000 人強、陽性率は数十%だったことを考えると劇的に減少したとも言えます。8 月の原稿には「予定の 9 月 25 日定例会について現時点ではどうなるか全く予想できないと言わざるを得ません」と書いていました。しかしテレビや新聞で感染症専門家たちは次の第 6 波が来るかもしれないから自粛を緩めないようにと警告しています。緊急事態宣言も 9/30 まで続くので今回中止の決定をした事をご了承頂ければ幸いです。

思い返すと前回の緊急事態宣言は 5 月の連休前から始まり、一度 5 月 11 日に終わる予定を 6 月 1 日まで延ばしましたが、再び 6 月 20 日まで更に先送りになりました。その後、感染者数は除々に上昇し始めたにも拘わらず 6 月 21 日に宣言が解除になります。人出は宣言中もどんどん増え、解除後は更に増えて、「人出」でも悪名高い渋谷で開く我が定例会は残念ながら中止せざるを得なくなったわけです。その後感染者数はどんどん増え遂には 5000 人近くになる第 5 波となりました。この第 5 波は 7 月末に始まり 9 月に入ってようやく収まり始めるというこれまでに最大のピークとなったのはご存じの通りです。[東京都 感染推](#)

[移グラフ \(新型コロナウイルス\) \(uub.jp\)](#)

出遅れていた我が国のワクチン接種率も急速に上がりつつあり効果が非常に出ているように見えます。そんなわけで mRNA ワクチンについて勉強を始めました。そこで見つけた最近刊 *Nature* の Editorial (597 318-324, 16 September 2021) をまずご紹介しようとして読み始めました。この記事はこれまで気になっていた mRNA ワクチン開発の歴史です。非常に沢山の研究者が登場する込み入った話で大勢の登場人物が複雑に絡み合い結局 mRNA ワクチンのノーベル賞は誰が貰うのかという話になります。原著も読んだりしないと分からない疑問だらけの解説記事なので時間切れとなってしまいました。次号までに何とかまとめて改めてお話ししたいと思います。

次回定例会は 10 月 16 日に開く予定です。このまま‘収束’が続き今度こそ予定通り開けることを切に祈るばかりです。本当に久しぶりなので皆さまの近況報告とコロナ話題の討論を中心に進めたいと考えています。開始時間を今までの 2 時より早めて帰りを早くすることも考えたいと思っています。皆さまのご意見をお聞かせください。

順調に開ければ 11 月末か 12 月初めに忘年会を開き、懸案の松本邦男先生が現在まとめて居られる野口英世関係のお話を予定したいと思います。話題提供は先生のご都合もありますのであくまで予定ですが、未だウイルスが良く分かっていなかった時代のお話ながら、伝染病と闘ってきた医学者の話はコロナと闘う現在も参考になることが多々ありそうです。詳しくは 10 月初めに発行予定の次号(No.128)でお知らせする予定です。

このジャーナルはバイオテクノロジー標準化支援協会 (SABS) 会員だけではなく、広い意味でのバイオテクノロジー関係の方々にも配信しています。現在、このジャーナルを読んで下さる方々は 600 名近く居られます。殆どの方が奥山先生の関係で先生の広がった人脈に改めて驚いています。ぜひ読者の方々からも話題提供をして下さる方をお待ちしています。また新たに購読希望の方々をご紹介頂ければ幸いです。

当 SABS ジャーナルのホームページ https://sabs.sabsnp.org/sabs_j/ ではジャーナルの最新号を含めたバックナンバーが収録してあります。また創刊号からのバックナンバーは <https://medbiol.sabsnp.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/archive> に収録しています。またお知り合いの方でこのジャーナルを配信希望の方が居られましたら会員である必要はありませんのでぜひ筆者のアドレス thiyama@athena.ocn.ne.jp に直接お知らせください。

- ① 配信停止希望の方は thiyama@athena.ocn.ne.jp にその旨お知らせください。
- ② 配信先アドレス等の登録情報変更も メールにてその旨お知らせください。
- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録ご希望の方もメール下さい。

④ ウェブサイトに関するご意見もメールにて頂ければ幸いです。

特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

URL:<http://sabsnpo.org>.

理事：荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、小川哲朗、川崎博史、檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹